序 …… 006

Ⅰ 遺言

姉・鶴見和子の病床日誌（二〇〇六年五月三十一日―七月三十一日）：（内山章子） 011

Ⅱ 最終講演

斃（たお）れてのち元（はじ）まる――命耀（かがや）くとき …… 043

はじめに

老・病・死の季節の中で　短歌を杖に生還する

Ⅰ「回生」の歩み

自然との一体感　死者と生者　自然から学ぶ

人間一人ひとりが小さな宇宙　死ぬとは　生きるとは

Ⅱ 遺すことば

憲法九条　南方熊楠とクストー

おわりに――未来に向けた曼荼羅の思想

Ⅲ 思想

弱者の立場から日本を開く……075
私の回生――シンポジウム「生命のリズム」から……083
静の足跡を辿って……092
きもの文化と自前の思想……097
諸文明の対話の思想、曼荼羅……101
水俣の回生……106
歌を杖として……111
＊　＊
江戸の精神エネルギーに学ぶ……（対談・田中優子）116

Ⅳ 時論

鶴見和子の言いたい放題
一　権力者に対する寛容は美徳か？……144

二　「反日的分子」と「非国民」……148
三　政治家の責任……152
四　国は破れても文化は遺れ……154
五　「日の丸・君が代」の強制に想う……157
六　小泉首相の靖国神社参拝に思う……161
七　「不戦」の誓い……163
八　もやい直し……165
九　老人リハビリテーションの意味……169

＊　＊

国連外交と日本の立場……（対談・緒方貞子）172

〈附〉カイロのお金――後藤新平のアジア経綸……202
〈インタビュー〉祖父・後藤新平のアジア経綸……206

初出一覧　217
鶴見和子著作一覧（一九九九―二〇〇六）　222